

## はじめに

お茶の水女子大学グローバル COE プログラム「格差センシティブな人間発達科学の創成」は、本学人間文化創成科学研究科人間発達科学専攻を中心に、格差にセンシティブ（敏感）な人間発達科学の創成と、その担い手となるソーシャル・ジャスティス（社会的公正）にセンシティブな人間発達研究者、特に女性研究者の養成を目的としている。この目的を達成するため、研究者養成の基礎となる「基盤教育プログラム」と、本拠点がめざすソーシャル・ジャスティスにセンシティブな新しい研究者養成のための「革新教育プログラム」を構想した。基盤教育プログラムのうち、公募研究は、若手研究者の自発的研究活動を促進し、あわせて拠点形成事業に必要な新しい視点を獲得する上で、中核に位置する事業である。

21 世紀 COE プログラム「誕生から死までの人間発達科学」（内田伸子拠点リーダー）は、大学院博士課程在籍者および修了者等を対象に、研究計画書を審査し、競争的に配分する方法を設計した。2002 年度 20 件 7,838 千円、2003 年度 10 件 4,828 千円、2004 年度 12 件 5,010 千円、2005 年度 10 件 3,920 千円、2006 年度 8 件 2,080 千円の助成を実施した。平均採択率は、32%である。各種競争的研究資金の獲得に必要な、意欲や資質等の訓練機会としても機能した。

グローバル COE プログラムでは、21 世紀 COE プログラムの成果を引き継ぎ、次のような期待をこめて公募研究事業を継続することとした。

- ① 指導教員の指導を受けながら、問題設定、研究計画の設定、研究の実施、成果のとりまとめについて、自力で遂行すること。自律的な研究者の育成機会となること
- ② 研究計画を立て研究を実施する上で必要なさまざまな現実的制約を知り、研究遂行に不可欠な構えと意欲、能力を身につけること
- ③ そうした現実的条件の中で、意味ある成果を生み出し発信していくこと
- ④ 競争的環境の中で、自らの研究をアピール・実行し、評価に耐える成果を発信し続けること

競争は質維持の基本条件ではあるが、競争に勝つ—すなわち公募研究に採択され研究資金を得ることが目的となつては本末転倒にほかならない。研究の意義を公に問い研究のミッションに対しての評価を、次の研究に生かさなくてはならない。その評価を得るためのひとつの手段が、公募研究成果論文集の発刊である。

財政逼迫の折、グローバル COE プログラムといえども財源豊富というわけではない。そういう文脈に置いてみると、公募研究に採択された若手研究者は、そしてその公募に応じる資格を与えられた院生ほかの諸君は、特権的である。私たちグローバル COE 事業推進担当者は、若手研究者の生産のためにこの事業を継続したいと考えている。自らの研究経費を削っても、機会を提供することの意義のほうが大きいと考える。次世代研究者への期待があるがためである。

平成 20 年 7 月吉日

拠点リーダー 耳塚 寛明